

バングラデシュにおける小児神経医療水準向上とリーダー人材育成支援

①現地の背景

バングラデシュでは小児神経科医は非常に少なく、専門研修後すぐに地域での医療に携わるため、小児神経診療レベルは不均一である。若手小児神経科医は日本での研修を希望しているが、海外へ渡航しての研修費用を確保できない

②事業目的

研修生の受入によるリーダー人材育成と、日本の研修プログラムと小児神経診療ガイドラインを現地の実情に応じて改変した、バングラデシュ版研修プログラムとガイドラインを策定し、幅広くかつ長期的な同国の小児神経診療水準の向上に寄与する。また、日本の優れた母子保健制度、乳幼児健診と療育システムを現地に合わせて導入し、同国での小児神経疾患の予防および療育システムを構築する。

③事業の概要

日本小児神経学会が、バングラデシュ小児神経学会(BCNS)と連携して、年間数名の若手医師を国内研修施設に受け入れ、ガイドラインに則った診療についての研修および、日本の健診や療育の実際を研修する。また、日本から小児神経科医を派遣し、現地でのセミナーと視察により現地に合ったガイドラインと研修プログラムの策定、現地学会の研修委員会設立運営を支援し、現地での健診と療育システム構築に向けた支援を行う。

④期待される成果とその後の波及効果

バングラデシュでのガイドライン普及により、3年後第1期終了時を目途に小児神経科医のみならず一般小児科医による小児神経診療水準の向上が期待できる。研修終了医師が中心となって現地での健診療育システムの構築準備を第1期ですすめ、2期目以降で実現できれば、子どもたちの将来の社会参加を促進し、インクルーシブな社会を目指すことができる。

